

3. 生活スタイルの変化に係る調査

3.1 過去 30 年の生活スタイルに係る調査

既存の調査研究資料や関連統計、関連機関の公式ウェブサイトで提供されている情報をもとに、ライフスタイル変化を整理した。

その際、関連要素を外部環境（食関連の事件・法改正、社会・経済動向など）と内部環境（働き方、暮らし方、利用するインフラ技術など）に分け、この 30 年でのライフスタイルの大きな変化を視覚化した。（図 3-1）

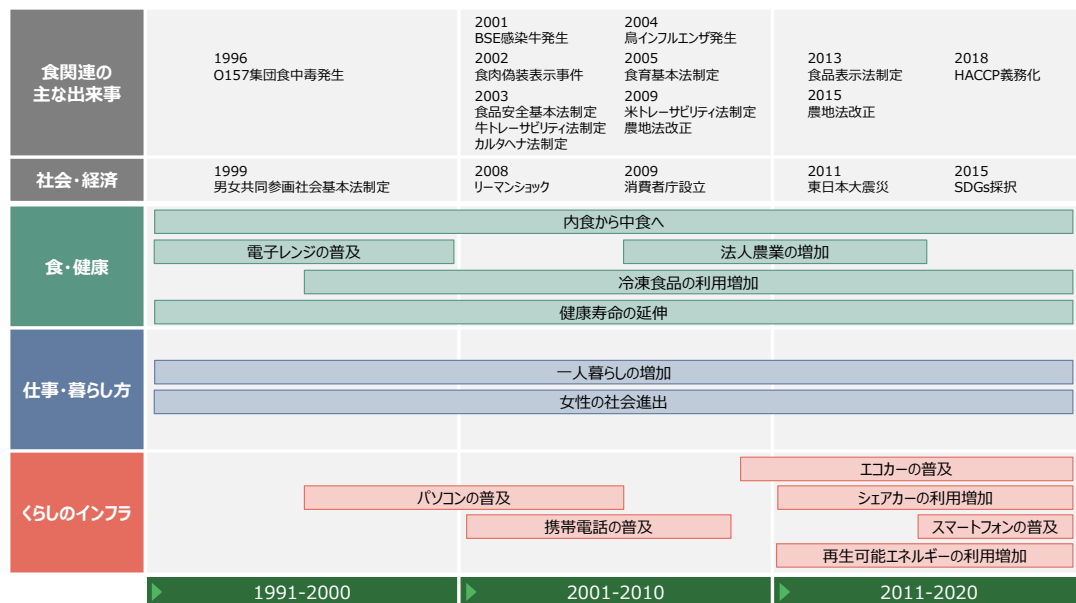


図 3-1 過去 30 年（1991-2020 年）のライフスタイル変化

出所）各種資料をもとに三菱総合研究所作成

図 3-1 で示した内部環境変化の各項目について、関連する統計データから 30 年間での変化の幅を示す。

(1) 内食から中食へ

女性の社会進出や単身世帯の増加などを背景として、家庭で料理を作って食べる「内食」が減少した。節約志向の高まりによる低価格化の進行などにより、「外食」も横ばいの推移が見られる。一方、惣菜や弁当を購入して手軽にご飯を食べる「中食」は増加した。(図 3-2)

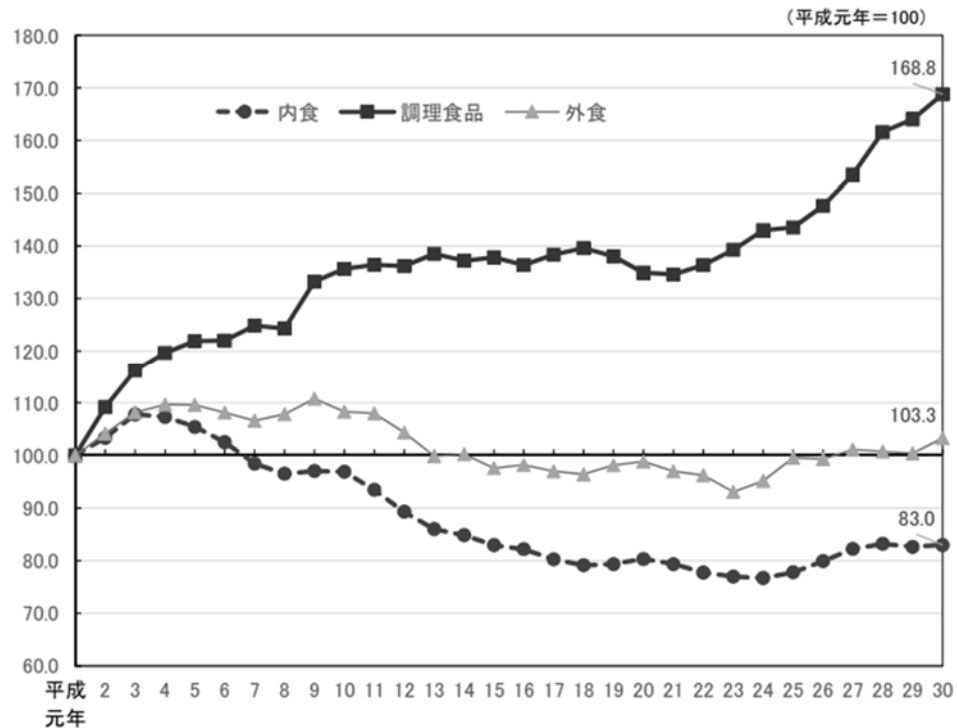


図 3-2 1 世帯当たり 1 か月間の食料の名目金額指数の推移

出所) 総務省 「統計が語る平成のあゆみ」 <https://www.stat.go.jp/data/topics/pdf/topi119.pdf> (閲覧日: 2020 年 12 月 3 日)

注 1) 内食は、穀類、魚介類、肉類、乳卵類、野菜・海藻、果物及び油脂・調味料の合計

注 2) 二人以上の世帯。平成 11 年までは農林漁家世帯を除く。

注 3) ここでは、他の世帯への贈答品やサービスの支出は食料の各項目に含めていない (用途分類)

(2) 電子レンジの普及

単身世帯含め、多くの世帯に電子レンジが普及した。(図 3-3)

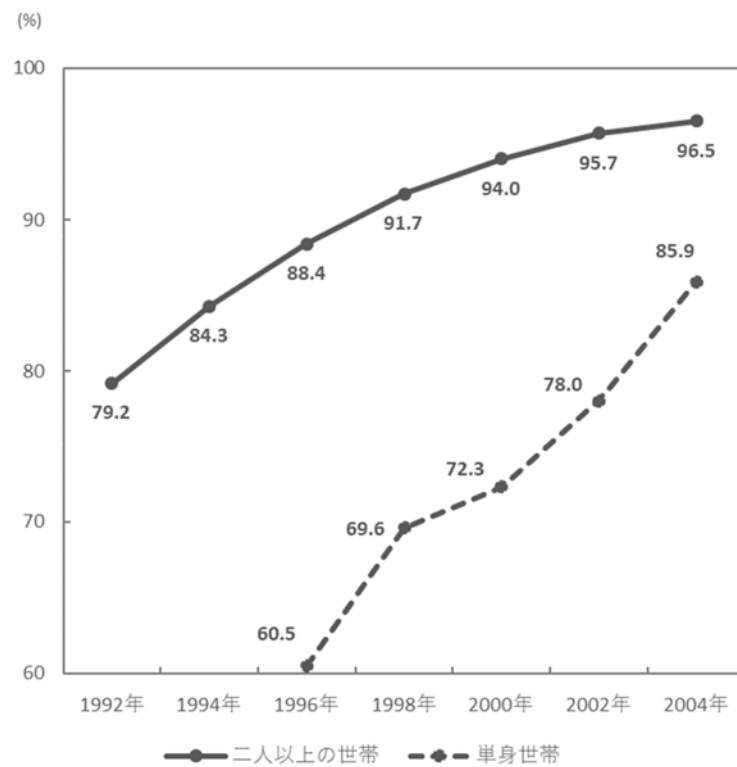


図 3-3 電子レンジの普及率の推移

出所) 内閣府「消費動向調査」、家電製品協会「家電産業ハンドブック 2020 (令和 2 年) 抜粋版」をもとに三菱総合研究所作成

(3) 冷凍食品の利用増加

電子レンジの普及と同時期に、冷凍食品の利用が増加した。(図 3-4)

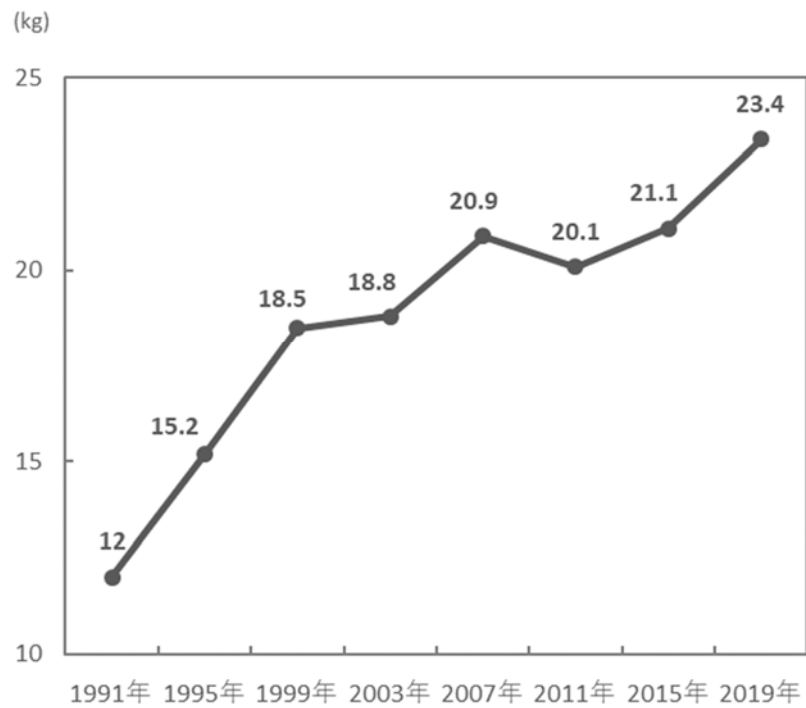


図 3-4 冷凍食品の国民 1 人当り年間消費量の推移

出所) 日本冷凍食品協会「統計資料 国内消費量推移」

<https://www.reishokukyo.or.jp/statistic/consumption/> (閲覧日: 2020 年 12 月 3 日) をもとに三菱総合研究所作成

(4) 法人農業の増加

生産者の高齢化や担い手不足などにより、総農家数が減少した。(図 3-5)

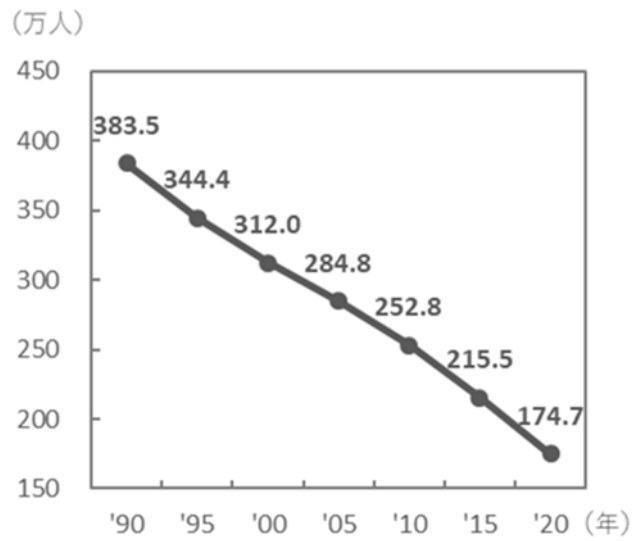


図 3-5 総農家数の推移

出所) 農林水産省「農林業センサス」をもとに三菱総合研究所作成

一方で、農地の流動化の進展や競争力強化に係る国の支援策などが奏功し、法人経営は年々増加している。(図 3-6)

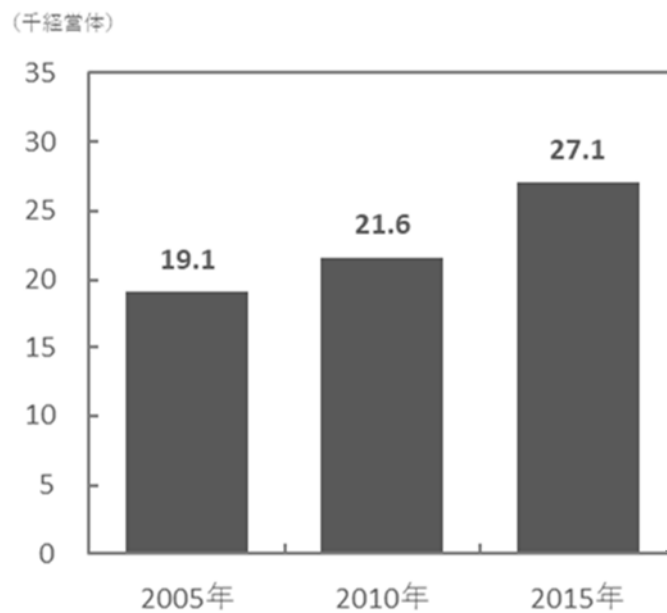


図 3-6 法人経営体数の推移

出所) 農林水産省「農林業センサス」をもとに三菱総合研究所作成

(5) 健康寿命の延伸

高齢者の健康寿命は年々延伸しており、体力テストの結果では20年間で5歳以上の若返りが確認される。(図 3-7)

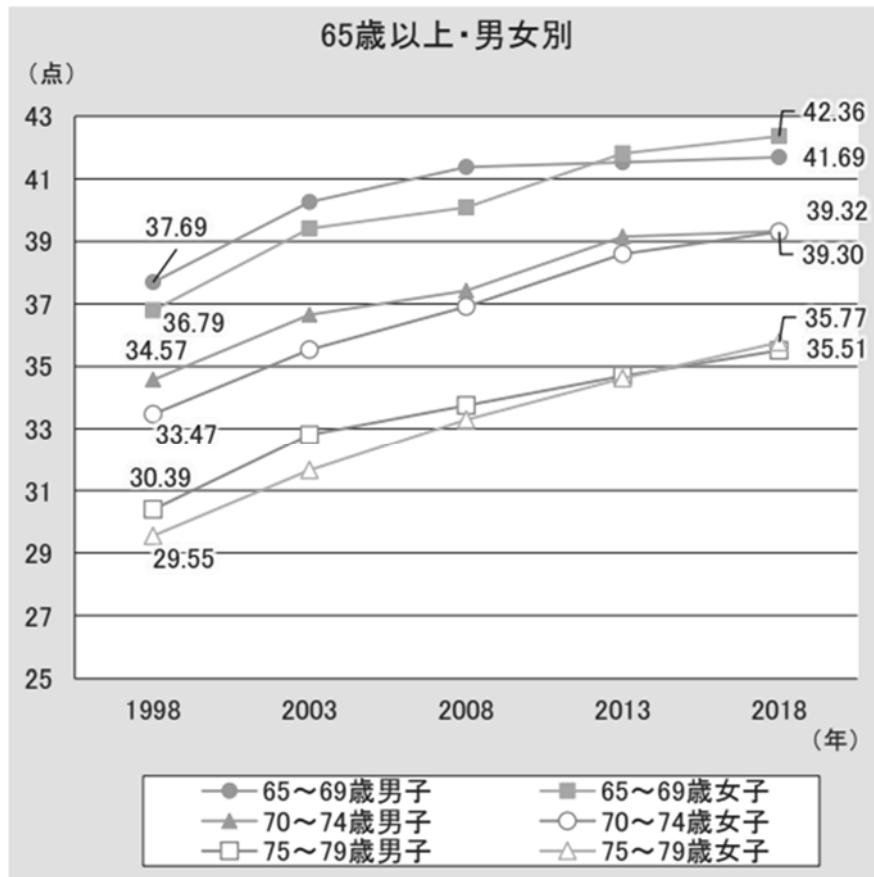


図 3-7 高齢者の新体力テストの合計点の推移

出所) 厚生労働省「令和2年版 厚生労働白書」

(6) 一人暮らしの増加

一人暮らしの世帯数は増加傾向にあり、特に 65 歳以上の高齢者層の増加が顕著である。今後もこの傾向は継続することが予想されている。(図 3-8)

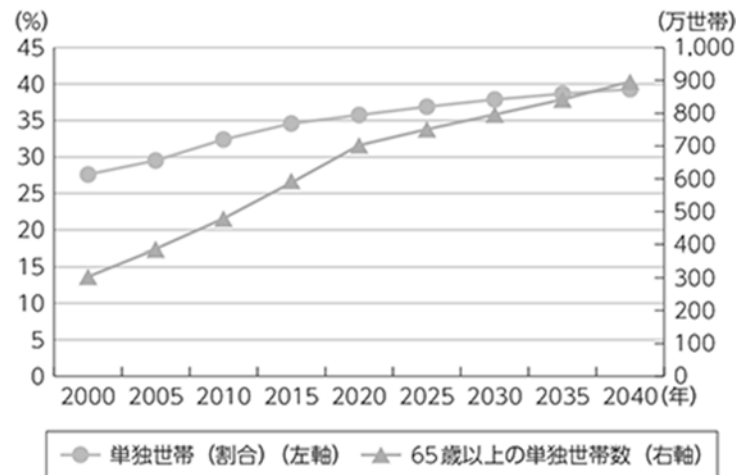


図 3-8 単独世帯率の推移と 65 歳以上の単独世帯数の推移 (2020 年以降は予測)
 出所) 総務省「平成 30 年版 情報通信白書」
<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h30/html/nd141110.html> (閲覧日 : 2020 年 12 月 3 日)
 注) 2015 年まで総務省統計局「国勢調査」2020 年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計 (全国推計) 2018 (平成 30) 年推計」(2018)

(7) 女性の社会進出

男女共同参画社会基本法制定などにより、女性の社会進出が進んだ。特に 20 代後半から 30 代前半の女性では、就業率の上昇が顕著である。(図 3-9)

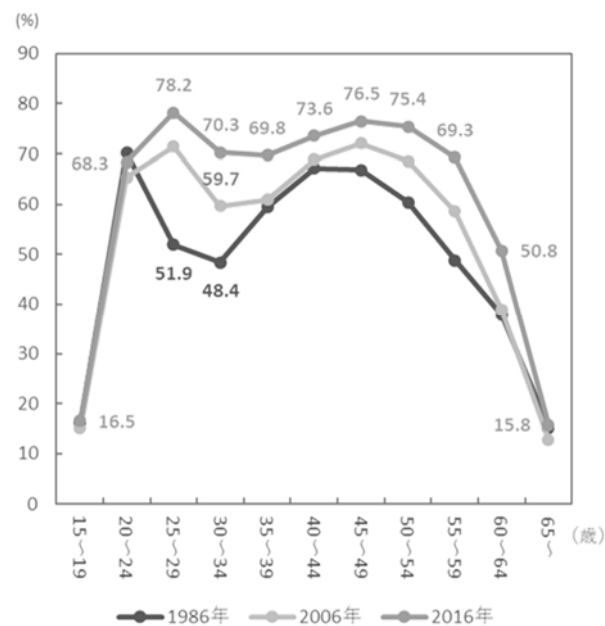


図 3-9 女性の年齢階級別就業率の推移
 出所) 内閣府「男女共同参画局白書 平成 29 年版」をもとに三菱総合研究所作成
 注) 総務省「労働力調査 (基本集計)」より作成

結婚・出産後も仕事を続ける女性が増えたことにより、共働き世帯が増加した。(図 3-10)

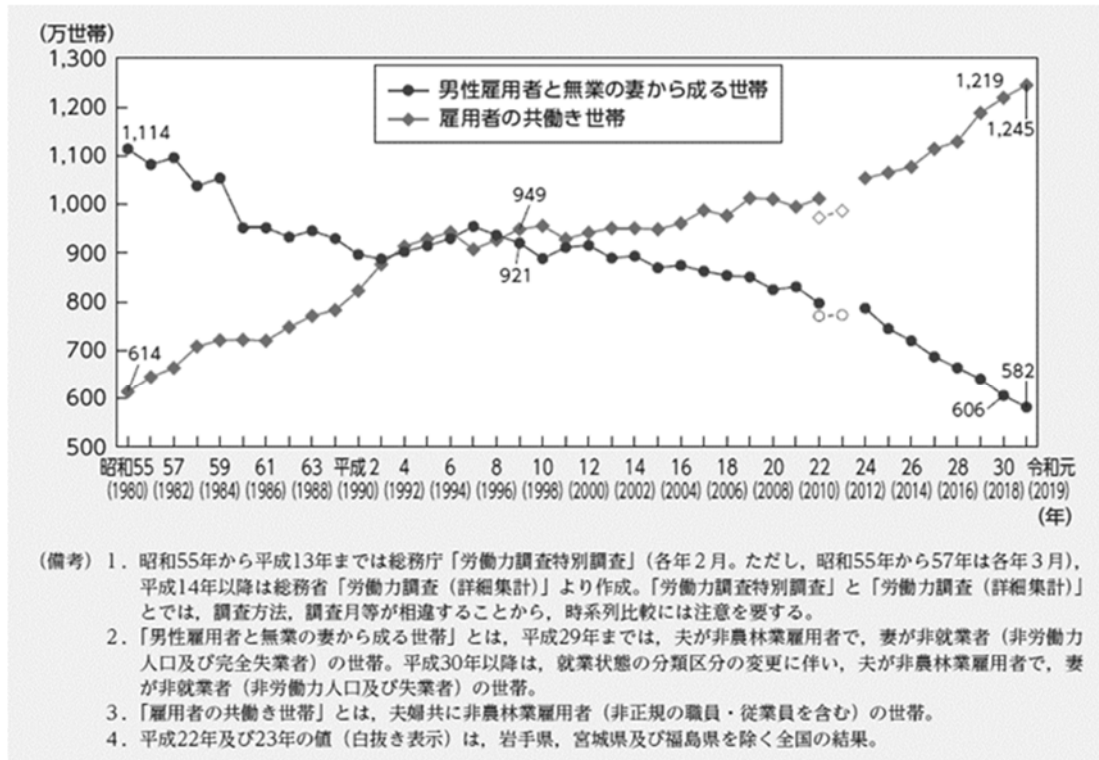


図 3-10 共働き世帯数の推移

出所) 内閣府「男女共同参画白書 令和2年版」

(8) パソコン・携帯電話・スマートフォンの普及

パソコンや携帯電話・スマートフォンが急速に普及し、情報収集・発信やコミュニケーションの機能だけでなく、ビジネスツールとしての活用が進展した。(図 3-11)

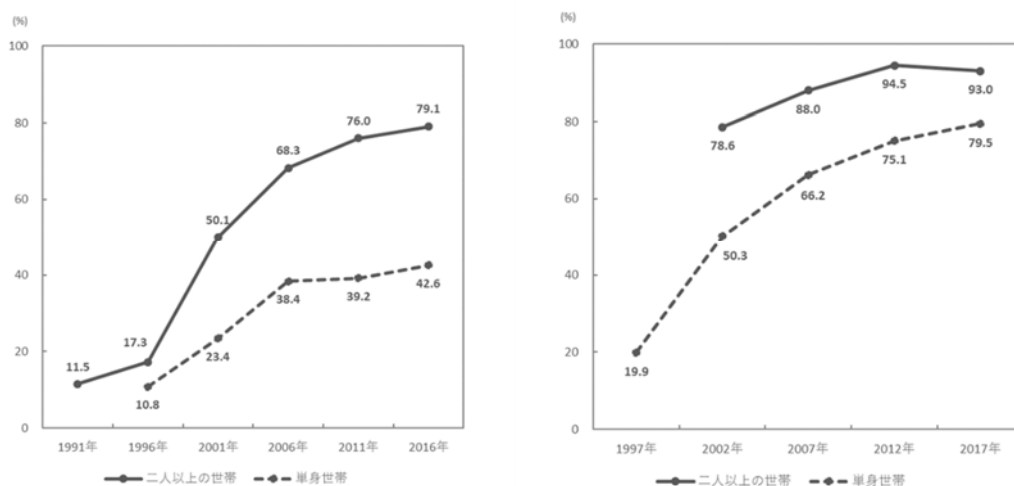


図 3-11 普及率の推移 (左: パソコン、右: 携帯電話・スマートフォン)

出所) 内閣府「消費動向調査」、家電製品協会「家電産業ハンドブック 2020 (令和2年) 抜粋版」をもとに三菱総合研究所作成

(9) エコカーの普及

エコカー補助金の影響もあり、見た目や価格だけではなく、環境性能を意識した自動車購入が進んだ。(図 3-12)



図 3-12 日本の次世代自動車の年間販売台数の推移

出所) 国土交通省・経済産業省「EV/PHV 普及の現状について」

(10) シェアカーの利用増加

カーシェアの利用者が急増しており、モノの「所有」から「利用」へのシフトが進んだ。(図 3-13)

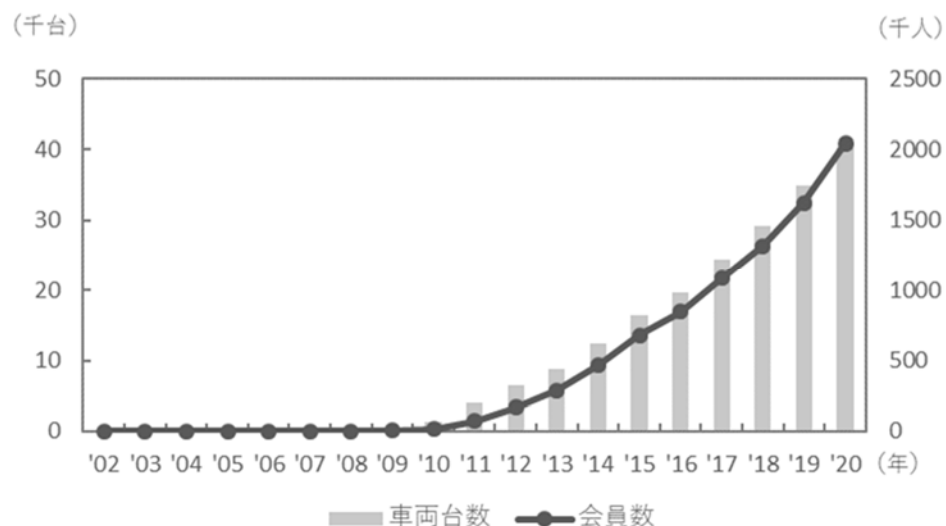


図 3-13 カーシェアリング車両台数と会員数の推移

出所) 交通エコロジー・モビリティ財団「わが国のカーシェアリング車両台数と会員数の推移」
http://www.ecomo.or.jp/environment/carshare/carshare_graph2020.3.html（閲覧日：2020年12月3日）をもとに三菱総合研究所作成

(11) 再生可能エネルギーの利用増加

再生可能エネルギーによる電力を高値で買い取る「FIT 制度」創設を機に、再生可能エネルギーの導入が急速に進んだ。(図 3-14)

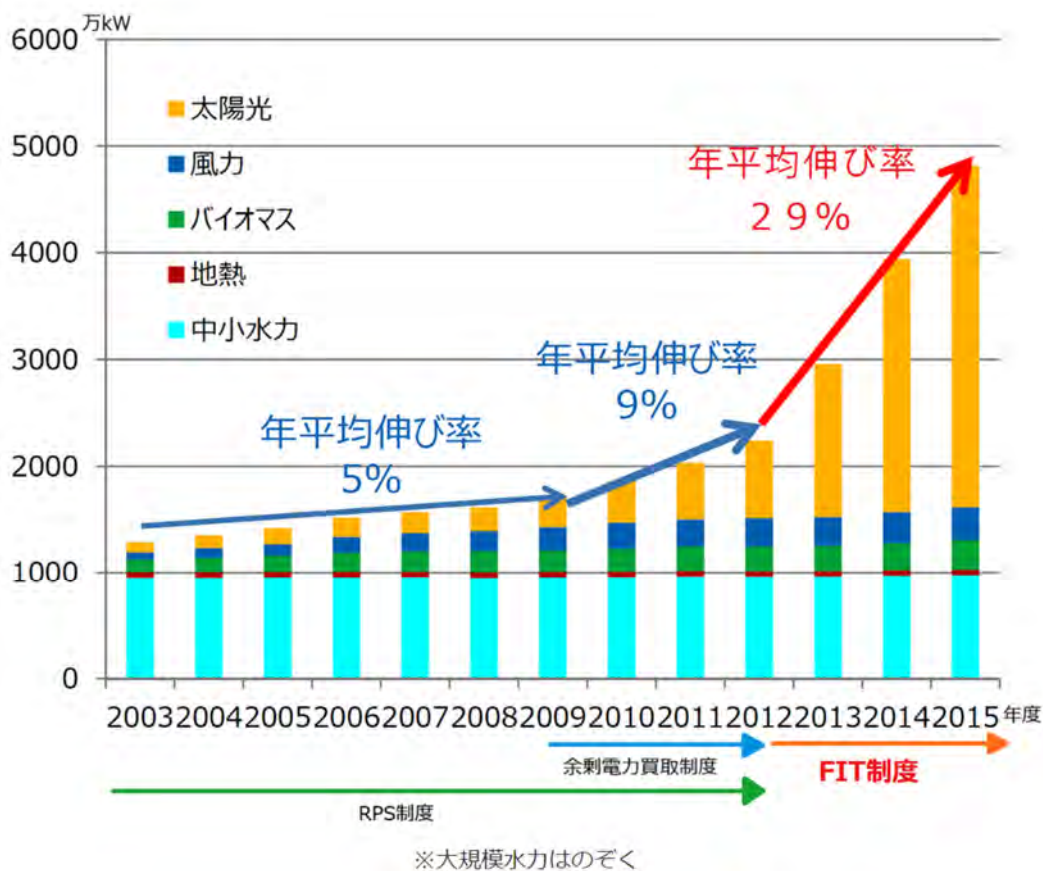


図 3-14 再生可能エネルギーなどによる設備容量の推移

出所) 国土交通省・経済産業省「EV/PHV 普及の現状について」

3.2 2050年の生活スタイルに係る調査

各省庁が将来推計・予測を行っている各種調査研究の報告書を整理し、分野別に2050年の生活イメージを共有できるよう、大きな将来像を描いた。参考とした文献を以下に示す。
(表 3-1)

表 3-1 2050年の生活スタイルに係る調査対象文献

調査先	概要
農林水産省「我が国の食料消費の将来推計」 https://www.maff.go.jp/primaff/seika/attach/pdf/190830_1.pdf	人口動態をもとに、2040年を見据えた食料需要推計を行っている。外部化、支出額、品目別の動きを押さえており参考になる。
内閣官房「将来に予想される社会変化」 https://www.kantei.go.jp/jp/singi/sousei/meeting/senryaku2nd_sakutei/h31-03-11-shiryou6.pdf	2040年までに起きることが確実な事項、推計を「人口減少高齢化の進展」、「情報通信技術の進展」、「スーパー・メガリージョンの形成」、「巨大災害の切迫」と大きなテーマを設定している。
国土交通省「イノベーションが描く2050年の我が国」 https://www.mlit.go.jp/hakusyo/mlit/h28/hakusho/h29/pdf/np103200.pdf	2050年の住まいや仕事、移動、インフラ整備や低炭素社会に向けた変化などの暮らしをイメージしながら意向調査を実施。
総務省「2050年以降の世界について」 https://www.soumu.go.jp/main_content/000539595.pdf	国内外の各種将来予測の資料から、ICT、AIの活用による実現したいモノ・コト、解決すべき社会課題を整理。
経済産業省「2050年までの経済社会の構造変化と政策課題について」 https://www.meti.go.jp/shingikai/sankoshin/2050_keizai/pdf/001_04_00.pdf	社会保障改革を目的とした将来予測を辞実施。第四次産業革命による就業構造の変化や高齢者の就業拡大について言及。
PwC「2050年の世界」 https://www.pwc.com/jp/ja/japan-knowledge/archive/assets/pdf/world-in-2050.pdf	国際比較の推計。2050年には、E7はG7の経済規模を50%以上上回り、中国、米国、インドが世界経済を牽引するとしている。
未来工学研究所「国・機関が実施している科学技術による将来予測に関する調査」 https://www.mext.go.jp/content/20200520-mxt_chousei01-100000404_1.pdf	国・機関が実施している科学技術による将来予測に関する調査を取りまとめているもの。生物・食、環境、防災など分野別に取りまとめられている。

生活スタイル変化に関わる要素を、「食」、「健康・医療・介護」、「仕事・働き方」、「住居・暮らし方」、「通信」、「エネルギー」、「モビリティ」の7つの分野に分類し、関連するキーワードを抽出した。その上で、想定される2050年の食卓の姿を示した。(表 3-2)

表 3-2 既存調査にある 2050 年の生活スタイルキーワードと食卓の姿例

分野	関連キーワード	2050 年の食卓の姿
食	・中食文化の浸透 ・培養肉 ・調理ロボット ・3D プリント食品 ・腸内細菌による栄養供給 ・光合成による栄養生産 ・衛星/AI 制御による食料生産 ・宇宙農場	・地球のことを考えて、メイン料理には代替肉・培養肉を選択
健康・医療・介護	・人生 100 年時代 ・ウェアラブルデバイスによる健康管理 ・パーソナライズ食生活指導 ・高齢者丸ごと見守りハウス ・ビッグデータ/AI による疾患診断 ・遠隔医療 ・血管内医療ロボット ・睡眠の自在コントロール	・健康・医療情報に基づいたパーソナライズ食生活指導
仕事・働き方	・在宅勤務中心 ・疑似職場環境 VR/AR ・ロボット/AI による仕事代行・補助 ・高齢者の就労機会拡大 ・転職が増加 ・仕事内容が製造業からサービス業へ	・調理ロボットと VR による、ランチミーティング、異業種懇親会の実施
住居・暮らし方	・一人暮らしの増加 ・勤務地に依らない居住地の選択 ・ロボット/AI による家事代行・補助 ・バーチャル空間での生活 ・宇宙旅行	・好きな店の料理を自宅で再現して、好きな場所で、好きな人と食事
通信	・AI/ビッグデータ/VR/AR の活用拡大 ・ドローンの活用拡大 ・衛星データの活用拡大 ・人体埋め込みデバイス ・脳波測定による赤ちゃんなどの感情分析	・AI 搭載冷蔵庫が、食品の在庫を判断して自動で買い物・宅配
エネルギー	・再生エネルギー利用拡大 ・宇宙太陽光発電 ・ゼロエネルギー住宅・建築 ・大容量ワイヤレス送電	・食材の食べられない部分などの生ごみを利用して、各家庭で発電
モビリティ	・お出かけ自動カプセル・自動運転 ・空飛ぶ車	・お出かけ自動カプセル内で、好みの料理がその

	・配達ロボット ・信号のない道路 ・一日交通圏の拡大	場で調理・提供される
--	--	------------

出所) 各種資料をもとに三菱総合研究所作成

注) 2050年の食卓の姿の欄の記述は例示として三菱総合研究所にて検討したもの